

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500266		
法人名	医療法人社団 清山会		
事業所名	グループホームゆかりの杜	ユニット名	なつめユニット
所在地	仙台市泉区南光台1丁目5番18号		
自己評価作成日	令和 3 年 12 月 3 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4 年 1 月 20 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念である「自立と共生の権理を尊ぶナラティブな関わり」の下、一人ひとりがやりたいこと、好きなこと、できることを大切にしながら、共に楽しみながら毎日を過ごしています。また、ご利用者の負担にならない程度に一緒に家事を行っていただき、役割を感じていただけるよう配慮しております。一人ひとりの想いに耳を傾け、ホームの中だけではない関わりの広がりや気分転換を図ることができるよう寄り添っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階建て2ユニットの「グループホームゆかりの杜」は、地下鉄台原駅から東に徒歩20分の南光台住宅街の一角にある。目標に「楽しもう、笑おう、一緒に生活しよう」を掲げている。入居者が主体となって、したいと思っている事や食べたい物等を引き出す為の対話に努めている。目標達成計画の「ご家族や友人、地域交流を可能な限り続けていく」は、短時間面会やオンライン面会をしている。散歩時に犬猫を連れて近所の人と仲良くなり、それが地域交流となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームゆかりの杜)「ユニット名 なつめ 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念・社是のもと、なじみの環境、地域での生活を支えることを意識し、さらに「楽しむ」という目標を継続しています。その人と何が出来るかを考え、一緒に楽しめることを常に考え、職員と共有しています。	2月に振り返り、「楽しもう、笑おう、一緒に生活しよう」を目標に掲げた。ユニット会議や日々の対話の中で、一人ひとりの好きな事等を話題にして、家事活動や趣味の継続支援をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入していますが、コロナウイルス感染予防対策の為、町内会のイベントが中止となっています。地域清掃やイベントが開催できる時期がきたら参加できるよう回覧板などで地域の情報を収集しています。	コロナ禍でイベントは中止だが、職員が地域清掃に2回参加した。家族に美容師がおりボランティアで入居者のカットをしてもらい喜ばれている。近所の犬の散歩時に仲良くなり、犬を介しての話が楽しみになっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染予防対策の為、現在は中止していますが、入居の問い合わせの際や直接訪問して下さった地域の方に対し、認知症に対する対応方法や助言、相談には都度対応させて頂いています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナウイルス感染予防対策の為、開催できていませんが、定期的に事業所の状況やコロナウイルス感染予防対策等を書面でお伝えしています。開催できる状況になったら再度実施していきます。	地域包括職員と民生委員、町内会長、施設長のメンバー構成だが、コロナ禍のため開催されず、文書郵送をしている。2カ月に1回、ホームの行事や活動内容、感染防止の防護服着脱訓練等を知らせている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度はまだ開催できていませんが、書面等で事業所の取り組みの報告をするとともに、助言をいただいています。また、可能な限り地域主催のケア会議に出席して関係性を築くよう心掛けています。	地域包括支援センターには、コロナ禍の課題等情報を聞いたり、事故提出書類の記入確認等の指導を受けている。研修情報を受けて喀痰研修に参加し、オンラインや実技で長期間だったが修了できた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、法人として行わないことになっています。また、年4回、身体拘束廃止のための委員会を開催するとともに、年2回、事業所内で勉強会を実施し、職員の理解を深めるようにしています。玄関は夜間以外は開放しており、自由に外に出られる環境を整えています。	身体拘束廃止委員会を3カ月に1回開催している。出来るだけ近くに寄り添い話しかける等、勉強会で職員が共有している。抑圧感がなく自由な暮らしの支援に、グレーゾーンカードを利用したり転倒防止のベッドセンサー等を活用し、取り組んでいる。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内における勉強会を通して、職員の理解と意識づけに努めるとともに、定期的に職員内で日々の関わりの方について振り返りを行っています。	高齢者虐待防止のための勉強会を行い、虐待はない。グレーゾーンカードに書かれた内容をユニット毎に検討している。職員の少なくなる時間帯のケアの重なりについて、話し合うなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者の中に、後見人制度や日常生活自立支援を利用されている方もおり、担当者との連絡や書類のやり取りも職員が行っている為、経験年数のある職員から新入職員へやりとりの仕方を教えるなど、実際の場で覚える機会があります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、ご本人・ご家族へ契約書や重要事項などについて十分な説明をしています。不安や疑問点などを確認しながら説明を行い、理解・納得をいただいたうえでサービス利用を開始できるようにしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との電話連絡や面会時に日々のお話を通して意見や要望を集めるとともに、日頃からのご家族との信頼関係の構築に努め、率直な意見をいただけるような関わりを大切にしています。意見や要望をいただいた際は職員間で共有し、時間を置かず改善に努めています。	コロナ禍対策を守り、15分間の面会を実施している。家族から「自走車椅子にしてほしい」や誕生日にノンアルコールワインの赤・白など希望に応じている。遠距離の親族には電話で様子を知らせている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回個人面談を実施しています。また、アンケートやミーティングなどを通じて職員の意見を聞き、運営に反映できるように努めています。	職員の意見や提案から、一口大刻み用にブレンダー購入や食材購入に宅配を利用した。腰痛のある職員からリフト付き浴槽の要望があり反映された。職員シフトは、子育てや家族介護等に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジ制度を設け、自らが取り組んでいける制度があります。(ミズクチャレンジ・サクシードチャレンジ今年度は4名がチャレンジ中です)また、ご利用者と一緒にイベント企画を行い、かつワークライフバランスを意識しながら職員がやりがいをもって主体的に働けるような環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修のほか、希望する研修に関しては、職員の希望や能力に応じて自由に参加できるようにしています。新人育成に関してはプログラムに沿った、働きながらトレーニングできる仕組みを設けています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はコロナウイルスに備え法人内職員を交えてコロナ陽性者発生時を想定した模擬訓練を行いました。周辺の感染状況に配慮しながら可能な限り、必要に応じて、系列施設に配置されている専門職へ働きかけ、知識をもらったり、評価をもらったりする機会を設けています。	法人内の専門職に協力を受けて、リハビリやマッサージ、誤嚥対策等について学び、理解を深めて、職員育成と実践に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでに、ご家族を含めた事前面談やご本人との事前面談を通じて、ご本人の想いや考えを聴取し、ご本人が安心してサービスの利用を開始できるように努めています。また、信頼関係を構築できるよう心がけ、関わりを大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用に至るまでに、話し合いの場を多く持ち、見学や電話連絡を通じて、ご家族の感じている不安・悩み・要望等に真摯に向き合っています。また、信頼関係構築を心がけてご家族との関わりをさせていただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族、居宅介護支援事業所職員や利用していた施設・病院などからの情報収集を行い、必要としているサービスの見極めを行っています。何よりも、ご本人とご家族が安心して生活していただけるように、必要なサービスについて相談しながら支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その日の体調を考慮しながら、ご本人がしたいことや長年行ってきた習慣を変えることなく行えるような環境を整え、役割やメリハリを持った生活を送れるようにしています。今までの経験や得意な事を活かして職員や他の入居者に様々な事を教えて頂きながら、生活しています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベントをご利用者と一緒に計画・実施し、ご家族には写真でお伝えしています。また面会時や電話等で生活のご様子を伝えたり、毎月「写真入りのお手紙」をお届けしています。LINEやzoom面会もご希望があった際は行っています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナウイルス感染予防対策の為、実施が難しい場合がありますが、毎年ご家族と行っていた行事なども感染症対策を行った上で、何度もご家族と調整しながら実施できました。また、いずみの社で「働くデイ」に参加されていた方のなじみの関係性が途切れないよう、関連事業所やご家族と相談し、現在もいずみの社に通って頂けるよう支援を行っております。	コロナ禍のため、デイサービス等は行けなくなっている。友人や親族には、オンラインや電話で会話をしたり手紙の返信をサポートしている。「働くデイ」に、通い草取り作業等の自立支援者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	表情や行動・言動から、ご利用者同士の関係性の把握に努め、食事の席や居場所に配慮しています。外出や行事を通じて、ご利用者同士で交流できる機会を設け、職員が間に入り、お互いの事を理解し合ったり繋がりが持てるように関わっております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご利用者のご家族と折に触れ、電話連絡を行ったり、散歩の途中で寄って下さったご家族と昔話をしたりと関係性の継続を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや、会話の中からご本人の想いを汲み取れるように配慮し、どんな些細なことでも知り得た情報は間を置かず職員間で共有し、その方にとって居心地よく、自分らしい生活が継続できるよう、支援しています。	日常のさりげない会話で聞いた事等、可能な限り早々に対応している。散歩時に柿を見つけた事から干し柿作りをしたり、ドライブで東照宮参り等を楽しんでいる。音楽を聴きながら好きな編み物をする方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から情報収集をし、バックグラウンドアセスメント表を活用し、その方の生活歴をホームでの生活に取り入れられるよう、職員間で情報共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のできること・難しいことの把握を行い、できない所を補うように努めています。その方の過ごし方も、季節や心身の状態によって変化が見られるので、その際は生活記録や申し送り等で伝達するようにしています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族にケアの意向を適宜確認し、関係者でケアカンファレンスを開催し、介護計画を作成しています。ご自分の想いを上手く表現できない方の介護計画については、特に情報収集に努め、ご本人の立場に立ち、計画を作成するようにしています。	毎月のユニット会議で情報収集や介護状況を話し合い、3ヵ月毎にモニタリングで見直しをしている。絵を描くことが好きな方のプランに、居室やホールで描きたい時に支援することを入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子について細かく記録し、月1回のミーティング時に日々の様子を話し合い、ケアの工夫、ご本人の状態の変化があれば、情報共有し、介護計画に反映させ、ケアを実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の希望や状況に合わせ、買い物、通院、個別外出の対応を行っています。また、主治医よりリハビリなどの必要性が認められる場合は、デイケアや訪問マッサージの利用を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの関係で難しい状況ではありますが、町内会に加入し回覧板などから地域行事を把握しています。運営推進会議では町内会長や地域包括支援センターの職員などからご意見をいただいています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医へ受診を継続するとともに、ご家族の状況に合わせ、ご家族の対応が難しい場合にはスタッフが付き添いを行っています。ご家族受診の際は、報告経過報告書を作成し病状や生活の様子をお伝えしています。	毎月、協力医の訪問診療を全員が利用している。入居者の状態変化に合わせて往診が有り、24時間の対応サポートがある。看護職員が健康管理や病院との連絡を行っている。歯科の訪問診療もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々のご利用者に対する健康管理について看護職員との相談体制を整え、小さな変化を見逃さないよう少しの変化でも看護職員と情報共有しています。急変や体調不良時は指示を仰ぎながら対応を行っております。受診の報告や内服薬の変更時は、情報共有ノートに記入し職員で共有を図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを提出し、普段のご本人の様子を病棟の担当看護師に直接お伝えして、入院生活を安心して送れるよう関係づくりを行います。現在は面会に行けない状況ですが、退院日が決定されたら、病院相談員と連携し、退院に向けて準備を行い、入院中の状況等の情報はユニット内で共有します。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に、重度化した場合における指針の説明をしています。その場面においてご本人やご家族の意向を随時確認しながら、事業所のできる事を医師や関係者とも連携を図りながら検討して対応を行います。その人らしく最期を迎えられるように日頃の関わりを大切に、ご家族からもご本人の昔や想いを伺うようにしています。	入居時に重度化や看取りに関する指針の説明をしている。「人生会議」として、本人や家族から意向を傾聴している。看取りは、医師や看護師、介護職員、管理者の「看取りチーム」が連携して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間研修計画を策定し、急変時の対応や、事故発生時の応急手当の研修を行っています。また、定期的に職員間で急変時の対応を再確認したり、日頃から新人職員に対して看護師や経験年数のある職員より、対応について確認をしています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し、災害時に冷静に対応できるように備えるとともに、災害時の備蓄品も確保しています。今後も運営推進会議等にて協力体制について話し合いを行ってまいります。	夜間想定を含む避難訓練を年2回行った。2階の車イスの避難対応に、広いベランダではしご車を待機したり、毛布や寝具等で滑り台のシュミレーションを行った。機器点検や非常食の備蓄は、年2回確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の人格を尊重し、その時々のご利用者にあった対応や声かけを行っています。対応については、情報共有ノートで共有するとともに、毎月のミーティング時に振り返りの時間を設けています。	呼び方は、入居時に聞いて苗字か名前に、さん付けにしている。普段の身だしなみの化粧品や肌着等は、本人と相談して購入している。失敗時には近くに寄り添い、小声で誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の関わりや会話の中からお利用者の思いや希望を把握するように努めています。把握した希望に関しては、可能な限り実現できるように、スタッフ間や、必要に応じてご家族にも協力してもらいながら、実現できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースを尊重し、その方が希望されている事を優先して支援を行っています。また、毎日のペースを職員間で共有し、ご本人の負担にならないような生活が送れるよう配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	在宅時の写真を持参して頂き、その方が好まれていた髪型や服装にできるようにしています。また、季節に合わせてその方に合った衣服と一緒に準備したり購入するなどの支援をしています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホールにその日の献立を掲示し、楽しみにされている方がいます。また、お誕生日にはその方が好んで召し上がるメニューをお出し、皆さんでお祝いをしたり、季節の物を取り入れ、一緒に準備から片付けまでを行っています。	入居者の好みを聞いたり、旬の食材を使って職員が献立を作成している。芋煮は、山形と仙台風があって好評だった。栄養バランスについては、法人管理栄養士の助言を受けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の疾病や体重を考慮し、必要時は栄養士に相談をしながら、食事や水分量の調整を行っています。状況に合わせて食事形態を変えたり、その方の好きな飲み物を提供し、水分量が確保できるように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕に関しては、その方の能力に応じた方法での口腔ケアを実施しています。口腔ケアの声掛け、義歯洗浄を支援しています。昼食後に関してはお一人お一人の生活習慣を考慮し、口腔ケアの声かけを行い対応しています。必要に応じて、定期的に訪問歯科による、アドバイスや指導を受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄サインを見逃さないようにケアにあたっています。排泄のリズムや尿量もスタッフ全員で把握できるようにし、お一人お一人に合ったパットを選択し、皮膚トラブルや使用量が最小限になるよう努めています。	トイレでの排泄を基本に、チェック表を活用し取り組んでいる。落ち着かないなど気になる動作を見かけた時は、早目の誘導をしている。紙パンツから布パンツに改善し笑顔が見られるようになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お薬の副作用、食事量、運動、活動量、睡眠状況など日々の観察を行いながら原因を探し、個々の状況に応じた予防に努めております。また状況に合わせてながら薬調整など主治医との連携にも努めております。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	希望に応じて入浴を行っています。夜間浴も実施しています。ご自身で準備して入浴することが難しい方に対しては、その方が傷つかないように配慮を行いながら、気分よく入浴できるように入浴支援を行っています。	入浴は同性介助を主とし、週2回を基本にしているが、毎日入浴する人もあり楽しみに入っている。入浴を洗る方は、ゆず湯や好みの入浴剤を入れている。プライバシー確保にカーテンを閉めて温まっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の睡眠状況を把握し、日中にどんなケアが必要かを考えながら、安眠できるよう支援をしています。不安が強く、眠れない様子が見られる方には、傾聴し、安心できるよう声掛けを行うと共に、入眠しやすい環境作りに努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表をファイルに綴じ、スタッフがいつでも確認できるようにしています。効能や副作用の他に医師からの注意点、助言があれば記載し、状態観察の指標の一つにしています。また、大きな症状の変化等がないか観察を行い、気になることがあれば適宜看護職員や主治医に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人がこれまで歩んできた人生経験を活かし、得意なことや楽しみごとを大切に生活できるように支援しています。家事を一緒に行い、それぞれが役割を感じていただけるような支援をするとともに、習慣化に努めています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナウイルス感染予防対策の為、外出の機会は減っていますが、ドライブをはじめ、近所への散歩や買い物へ一緒に行くなど、ご本人の希望を伺いながら実施しています。また、食事の買い出しにも一緒に行っていたり、ご自身の持っているお小遣いで好きな物を買われる方もいます。	日常的には、ホーム前の公園を散歩したり、ウッドデッキでの外気浴をしている。近くのコンビニへの買い物もしている。外出の為にドライブがあり、神社や花見等を楽しんだ。プラントでミニトマトの栽培や朝顔、コスモス等を植えて楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行った際、必要額を所持し、希望に応じてお支払いいただくようにしています。ご自分で支払いが困難な方でも、職員と一緒に選び、その場でお支払いの内容を説明するなど、一緒に確認しながら行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から要望があった際には、ご家族や知人の方に電話できるように支援しています。手紙についても、一緒に便箋を購入しにいき、知人への手紙のやり取りをサポートしています。また、LINEやZoomを使用して県外にお住まいのご家族とテレビ電話での面会を行っております。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方が好まれる音楽や、ご家族が準備して下さったDVDを上映し、皆さんで楽しめる姿が見られています。また、コロナウイルス感染予防対策の為、常時換気を行っていますが、暑さや寒さを不快に感じないよう、冷暖房の調整も行っています。ホールの壁には季節ごとの設えを入居者の皆さんと一緒にしています。	共用スペースのホールは温度や湿度・CO ₂ チェックを行い、快適に過ごせるようにしている。季節を感じられるように、正月飾り、鬼飾り、リース等を作り、飾っている。窓際の陽向にテーブルやソファを置いて、おしゃべり等ゆったり寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の性格や相性を考慮し、気の合う方同士でテーブルを囲み、一緒に過ごせる空間に配慮しています。また、ゆっくり過ごしていただけるようソファを設けるなど、家具の配置にも工夫をしています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談しながら、新しいものではなく、今までご自宅で使用していた使い慣れたものをご持参いただいています。その方の心身状態の変化に伴い、安心して居室で過ごせるような工夫を行っています。	テレビや仙台筆筒、スタンドグラス等、馴染みの物を持ち込んでいる。孫や家族写真を飾り、居心地良く過ごしている。居室の掃除は、出来る入居者は、一緒に掃除している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置を工夫したり、居室ドアやトイレ等の表札等により部屋がわかるように工夫しています。ご本人の力を活用できるようサポートを行い、個別に支援しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500266		
法人名	医療法人社団 清山会		
事業所名	グループホームゆかりの杜	ユニット名	あやめユニット
所在地	仙台市泉区南光台1丁目5番18号		
自己評価作成日	令和 3 年 12 月 3 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4 年 1 月 20 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念である「自立と共生の権理を尊ぶナラティブな関わり」のもと、一人ひとりがやりたいこと、好きなこと、できることを大切にしながら、共に楽しみながら毎日を過ごしています。また、ご利用者の負担にならない程度に一緒に家事を行っていただき、役割を感じていただけるよう配慮しております。一人ひとりの想いに耳を傾け、ホームの中だけではない関わりが広がりや気分転換を図ることができるように寄り添っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階建て2ユニットの「グループホームゆかりの杜」は、地下鉄台原駅から東に徒歩20分の南光台住宅街の一角にある。目標に「楽しもう、笑おう、一緒に生活しよう」を掲げている。入居者が主体となって、したいと思っている事や食べたい物等を引き出す為の対話に努めている。目標達成計画の「ご家族や友人、地域交流を可能な限り続けていく」は、短時間面会やオンライン面会をしている。散歩時に犬猫を連れて近所の人と仲良くなり、それが地域交流となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームゆかりの杜)「ユニット名 あやめ 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念・社是のもと、なじみの環境、地域での生活を支えることを意識し、さらに「楽しむ」という目標を継続しています。その人と何ができるかを考え、一緒に楽しめることを常に考え、職員と共有しています。	2月に振り返り、「楽しもう、笑おう、一緒に生活しよう」を目標に掲げた。ユニット会議や日々の対話の中で、一人ひとりの好きな事等を話題にして、家事活動や趣味の継続支援をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入していますが、コロナウイルス感染予防対策の為、町内会のイベントが中止となっています。地域清掃やイベントが開催できる時期がきたら参加できるよう回覧板などで地域の情報を収集しています。	コロナ禍でイベントは中止だが、職員が地域清掃に2回参加した。家族に美容師がおりボランティアで入居者のカットをしてもらい喜ばれている。近所の犬の散歩時に仲良くなり、犬を介しての話が楽しみになっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染予防対策の為、現在は中止していますが、入居の問い合わせの際や直接訪問してくださった地域の方に対し、認知症に対しての対応方法や助言、相談には都度対応させて頂いています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナウイルス感染予防対策の為、開催できていませんが、定期的に事業所の状況やコロナウイルス感染予防対策等についてを書面でお伝えしています。開催できる状況になったら再度実施していきます。	地域包括職員と民生委員、町内会長、施設長のメンバー構成だが、コロナ禍のため開催されず、文書郵送をしている。2カ月に1回、ホームの行事や活動内容、感染防止の防護服着脱訓練等を知らせている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度はまだ開催できていませんが、書面等で事業所の取り組みの報告をするとともに、助言をいただいています。また、可能な限り地域主催のケア会議に出席して関係性を築くよう心掛けています。	地域包括支援センターには、コロナ禍の課題等情報を聞いたり、事故提出書類の記入確認等の指導を受けている。研修情報を受けて喀痰研修に参加し、オンラインや実技で長期間だったが修了できた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、法人として行わないことになっています。また、年4回、身体拘束廃止のための委員会を開催するとともに、年2回、事業所内で勉強会を実施し、職員の理解を深めるようにしています。玄関は夜間以外は開放しており、自由に外に出られる環境を整え、お散歩希望の方とは一緒に外出し気分転換を図っています。	身体拘束廃止委員会を3カ月に1回開催している。出来るだけ近くに寄り添い話しかける等、勉強会で職員が共有している。抑圧感がなく自由な暮らしの支援に、グレーゾーンカードを利用したり転倒防止のベッドセンサー等を活用し、取り組んでいる。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内における勉強会を通して、職員の理解と意識づけに努めるとともに、定期的に職員内で日々の関わりの方について振り返りを行っています。	高齢者虐待防止のための勉強会を行い、虐待はない。グレーゾーンカードに書かれた内容をユニット毎に検討している。職員の少なくなる時間帯のケアの重なりについて、話し合うなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で勉強会を行い成年後見制度や日常生活自立支援事業について学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、ご本人・ご家族へ契約書や重要事項などについて十分な説明をしています。不安や疑問点などを確認しながら説明を行い、理解・納得をいただいたうえでサービス利用を開始できるようにしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との電話連絡や面会時に日々のお話を通して意見や要望を集めるとともに、毎月発行している、ご利用者の最近の様子や写真を載せた「杜だより」をお渡ししています。ご意見や要望をいただいた際は職員間で共有し、時間を置かず改善に努めています。	コロナ禍対策を守り、15分間の面会を実施している。家族から「自走車椅子にしてほしい」や誕生日にノンアルコールワインの赤・白など希望に応じている。遠距離の親族には電話で様子を知らせている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回個人面談を実施しています。また、アンケートやミーティング、アイデアノートを作成して職員の意見を聞き、事業所運営に反映できるように努めています。	職員の意見や提案から、一口大刻み用にブレンダー購入や食材購入に宅配を利用した。腰痛のある職員からリフト付き浴槽の要望があり反映された。職員シフトは、子育てや家族介護等に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジ制度を設け、自らが取り組んでいける制度があります。(ミズクチャレンジ・サクシードチャレンジ今年度は4名がチャレンジ中です)また、ご利用者と一緒にイベント企画を行い、かつワークライフバランスを意識しながら職員がやりがいをもって主体的に働けるような環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修のほか、希望する研修に関しては、職員の希望や能力に応じて自由に参加できるようにしています。新人育成に関してはプログラムに沿った、働きながらトレーニングできる仕組みを設けています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はコロナウイルスに備え法人内職員を交えてコロナ陽性者発生時を想定した模擬訓練を行いました。周辺の感染状況に配慮しながら可能な限り、必要に応じて、系列施設に配置されている専門職へ働きかけ、知識をもらったり、評価をもらったりする機会を設けています。	法人内の専門職に協力を受けて、リハビリやマッサージ、誤嚥対策等について学び、理解を深めて、職員育成と実践に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族との事前面談をとoshi、ご本人の想いや考えを聴き取りながら、ご本人が安心してサービスの利用を開始できるように努めています。また、信頼関係を構築できるよう日々の会話を大切にしよう心がけ具体的な要望をお伺いしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用に至るまでに、話し合いの場を多く持ち、見学や電話連絡を通じて、ご家族の感じている不安・悩み・要望等に真摯に向き合っています。また、信頼関係構築を心がけてご家族との関わりをさせていただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族、居宅介護支援事業所職員や利用していた施設・病院などからの情報収集を行い、必要としているサービスの見極めを行っています。何よりも、ご本人とご家族が安心して生活していただけるように、必要なサービスについて相談しながら支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人がやりたい事やこれまでお好きだった趣味活動、役割を通じて自分らしい生活を送れるようにしています。適宜職員間で話し合いの機会を持ち、その方を中心に私たちにできることは何か話し合い、入居者同士の関係性構築にも気を配っています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で生活の様子を伝えたり、毎月発行している「杜だより」に写真を添付してお届けしています。またイベントを入居者と一緒に計画・実施しています。いいことも気になることもこまめに電話で報告しています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナウイルス感染予防対策の為、実施が難しい時もありますが、可能な限り感染予防対策をして面会していただいたり、電話でお話をして頂いたり、LINEやzoom面会のご案内も継続し行っています。	コロナ禍のため、デイサービス等は行けなくなっている。友人や親族には、オンラインや電話で会話をしたり手紙の返信をサポートしている。「働くデイ」に、通い草取り作業等の自立支援者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	表情や仕草、行動、言動等から、ご本人同士の関係性の把握に努め、食事の席や居場所に配慮しています。外出や行事を通して、ご利用者同士で交流できる機会を設け、職員が間に入りながら会話や穏やかに居心地よく過ごせるよう関わっております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された入居者のご家族と電話や年賀状で近況をお伺いしています。ご逝去されたご家族の想いを伺いながら助言することもありました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや、会話の中からご本人の想いを汲み取れるように配慮し、どんな些細なことでも知り得た情報は間を置かず職員間で共有し、その方にとって居心地よく、自分らしい生活が継続できるよう、支援しています。	日常のさりげない会話で聞いた事等、可能な限り早々に対応している。散歩時に柿を見つけた事から干し柿作りをしたり、ドライブで東照宮参り等を楽しんでいる。音楽を聴きながら好きな編み物をする方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から情報収集をし、バックグラウンドアセスメント表を活用し、その方の生活歴をホームでの生活に取り入れられるよう、職員間で情報共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のできること・お手伝いが必要なことを把握し、できないところを補うように努めています。その方の過ごし方については個人記録や日々の申し送りで伝達し、健康状態も把握しています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族にケアの意向を適宜確認し、関係者でケアカンファレンスを開催し、介護計画を作成しています。ご自分の想いを上手く表現できない方の介護計画については、特に情報収集に努め、ご本人の立場に立ち、計画を作成するようにしています。	毎月のユニット会議で情報収集や介護状況を話し合い、3か月毎にモニタリングで見直しをしている。絵を描くことが好きな方のプランに、居室やホールで描きたい時に支援することを入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子についてこまめに記録し、スタッフ間で情報を共有しています。関わりの工夫、ご本人の状態に変化があれば都度共有し、介護計画に反映させケアを実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望やその時々状況に合わせて、買い物、通院、個別の外出の機会を設けています。急なニーズに対しては他ユニット職員とも連携し、柔軟な対応を心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの関係で難しい状況ではありますが、町内会に加入し回覧板などから地域行事を把握しています。運営推進会議では町内会長や地域包括支援センターの職員などからご意見をいただいています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医へ受診を継続するとともに、ご家族の状況に合わせ、ご家族の対応が難しい場合にはスタッフが付き添いを行っています。ご家族受診の際は、報告経過報告書を作成し病状や生活の様子をお伝えしています。	毎月、協力医の訪問診療を全員が利用している。入居者の状態変化に合わせて往診が有り、24時間の対応サポートがある。看護職員が健康管理や病院との連絡を行っている。歯科の訪問診療もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々のご利用者に対する健康管理について看護職員との相談体制を整え、小さな変化を見逃さないよう少しの変化でも看護職員と情報共有しています。急変や体調不良時は指示を仰ぎながら対応を行っております。受診の報告や内服薬の変更時は、情報共有ノートに記入し職員で共有を図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族に事前に搬送先のご希望をお伺いしております。入院時のサマリー作成を通し、病院関係者と連携し安心して入院生活を送れるよう関係作りに努めています。退院の際は関係者と連絡を取り合いながら退院後の支援方法を職員と共有しています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に、重度化した場合における指針の説明をしています。その場面においてご本人やご家族の意向を随時確認しながら、事業所でできる事を医師や関係者とも連携を図りながら検討して対応を行います。その人らしく最期を迎えられるように日頃の関わりを大切に、ご家族からご本人の昔や想いを伺うようにしています。	入居時に重度化や看取りに関する指針の説明をしている。「人生会議」として、本人や家族から意向を傾聴している。看取りは、医師や看護師、介護職員、管理者の「看取りチーム」が連携して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間研修計画を策定し、急変時の対応や、事故発生時の応急手当の研修を行っています。また、定期的に職員間で急変時の対応を再確認したり、日頃から新人職員に対して看護師や経験年数のある職員より、対応について確認をしています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し、災害時に冷静に対応できるように備えるとともに、災害時の備蓄品も確保しています。今後も運営推進会議等にて協力体制について話し合いを行ってまいります。	夜間想定を含む避難訓練を年2回行った。2階の車イスの避難対応に、広いベランダではしご車を待機したり、毛布や寝具等で滑り台のシュミレーションを行った。機器点検や非常食の備蓄は、年2回確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の人格を尊重し、相手の立場になって考えながら関わっています。不適切な対応になっていないか職員間でお互いに確認し合ったり、ミーティング等で振り返る機会を設けています。	呼び方は、入居時に聞いて苗字か名前に、さん付けにしている。普段の身だしなみの化粧品の補充や肌着等は、本人と相談して購入している。失敗時には近くに寄り添い、小声で誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の関わりや会話の中から想いや希望を把握できるよう努めています。また家族への聞き取りやアセスメントを把握し、合理的配慮(筆談なども交え)を考えながら、自己決定できるように配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースに合わせ、その方の意向に沿うことが出来るよう支援しています。また、起床時間や就寝時間、朝食についてもその方々に合わせた時間で対応を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人やご家族からお好みの装いを伺い、化粧道具等も日ごろ使用していたものをご持参いただいたり在宅時と変わらないようサポートしています。その日の装いはご本人に決めていただいています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューは適宜ご希望をお伺いしながら献立を作成して、一緒に行える方とは調理からお片付けまで協力して頂いております。各家庭の味を再現するため、味見をして頂きながら調理作業も進めています。	入居者の好みを聞いたり、旬の食材を使って職員が献立を作成している。芋煮は、山形と仙台風があって好評だった。栄養バランス等については、法人管理栄養士の助言を受けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の疾病や体重を考慮し、必要時は主治医に相談をしながら食事や水分量の調整を行っています。状況に合わせて食事形態を変えたり、その方の好きな飲み物を提供し、水分量が確保できるように努めています。栄養確保が難しい方には捕食で補うようご用意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕に関しては、その方の能力に応じた方法での口腔ケアを実施しています。口腔ケアの声掛け、義歯洗浄を支援しています。昼食後に関してはお一人お一人の生活習慣を考慮し、口腔ケアの声がけを行い対応しています。必要に応じて、定期的に訪問歯科による、アドバイスや指導を受けています。食後の緑茶飲用も取り入れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン表から排泄サインや排泄のリズム、尿量もスタッフ全員で把握できるようにし、その方に合ったパットを選択し、皮膚トラブルや使用量が最小限になるよう努めています。布パンツへの変更は可能かの検討も適宜行っております。	トイレでの排泄を基本に、チェック表を活用し取り組んでいる。落ち着かないなど気になる動作を見かけた時は、早目の誘導をしている。紙パンツから布パンツに改善し笑顔が見られるようになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お薬の副作用、食事量、運動、活動量、睡眠状況など日々の観察を行いながら個々の状況に応じた予防に努めております。薬だけに頼らず水分量の確保や乳製品を取り入れて、自然排便ができるよう努めています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	ご本人の希望に応じて入浴を行っています。ご自身で準備して入浴することが難しい方に対しては、2人でお手伝いできるよう配慮しています。また、入浴剤についても好みものを選んでいただき楽しんで頂いています。また季節感を感じていただく為に、ゆず風呂やよぶ湯にも入って頂いております。	入浴は同性介助を主とし、週2回を基本にしているが、毎日入浴する人もあり楽しみに入っている。入浴を洗る方は、ゆず湯や好みの入浴剤を入れている。プライバシー確保にカーテンを閉めて温まっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状況を把握し日中の過ごし方を考え安眠できるよう支援をしています。不安が強く、眠れない様子が見られる方には傾聴し、安心できるように声掛けを行うと共に、寝る前の足浴も取り入れています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表をファイルに綴じ、スタッフがいつでも確認できるようにしています。効能や副作用の他に医師からの注意点、助言があれば記載し、状態観察の指標の一つにしています。また、大きな症状の変化等がないか観察を行い、気になることがあれば適宜看護職員や主治医に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎夕、晩酌を楽しみにされている方にはノンアルコールビールをご用意しています。またご本人のお誕生日には、ご希望に沿い、外出やケーキ、お好みのメニューをご用意しています。強制することなく気持ちを尊重しながら掃除や洗濯たみ等の家事作業を通し、やりがいを感じていただいています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナウイルス感染予防対策の為、外出の機会は減っていますが、近所への散歩やご本人の希望を伺いながら少人数でのドライブ外出を実施しています。お花見や紅葉狩り等、思い出の地を伺いながら外出したりしています。	日常的には、ホーム前の公園を散歩したり、ウッドデッキでの外気浴をしている。近くのコンビニへの買い物もしている。外出の為にドライブがあり、神社や花見等を楽しんだ。プラントでミニトマトの栽培や朝顔、コスモス等を植えて楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行った際、お好きな物を選んで頂き、ご自身でお支払いできるようお手伝いしています。ご自分で支払いが困難な方でも、職員と一緒に品物を選び、その場でお支払い内容を説明したり、一緒に確認しながら行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から要望があった際には、ご家族や知人の方に電話できるように支援しています。手紙についても、年賀状等に一言記入するためにご本人の想いを代筆しています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が準備して下さったCDやDVDと一緒に鑑賞しています。コロナウイルス感染予防対策の為、常時換気を行っていますが、室温が快適であるよう適宜確認しながら冷暖房の調整を行っています。毎月、季節に合った飾りを入居者の皆さんと一緒に設えています。また画家だった方の作品も飾らせていただいています。	共用スペースのホールは温度や湿度・CO ₂ チェックを行い、快適に過ごせるようにしている。季節を感じられるように、正月飾り、鬼飾り、リース等を作り、飾っている。窓際の陽向にテーブルやソファを置いて、おしゃべり等ゆったり寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方とテーブルを囲めるようにしていますが、その日毎に座る場所はご本人に決めていただいています。また陽当たりの良い場所にテーブルやソファを設置し、くつろげる空間作りに配慮しています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談しながら、今までご自宅で使用していたなじみの物をご持参いただいています。また家族写真や趣味で作成した絵等の作品を掲示し、その方の個性に合わせたお部屋作りを支援しています。	テレビや仙台筆筒、スタンドグラス等、馴染みの物を持ち込んでいる。孫や家族写真を飾り、居心地良く過ごしている。居室の掃除は、出来る入居者は、一緒に掃除している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	馴染みの家具や調度品を配置し、居室ドアには表札等を付けて、自室だとわかるようにしています。ご本人の力を活用できるように室内環境に配慮し個別に支援しています。		